横浜市立永田台小学校

学校教育目標**「一人ひとりが輝く永田台」**

ＥＳＤを通して育成したい資質・能力

「人ものことととのつながりを尊重する力」「未来を予測して解決する力」「協働的に取り組む態度」

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　□は連携・協働のパートナー

芽かきをすると、どんどん大きく育っていくんですね。

誘引することで、台風が来ても倒れないから安心なんだね。安心だな。

見て！発酵したらこんなに膨らんでたよ！

学校のシンボル「カニキング」のデザインを入れたいです！

この中で、どの味のパンが好きですか？教えてください！

本物の花火はやっぱり迫力がすごいな！思わず拍手や歓声があがるような花火をぼくたちもつくりたい！

同じような花火がつづくと飽きちゃうから、この順番を変えたほうがいいんじゃない？

○２年生　生活科「おいしいやさいになあれ」

昨年度の２年生が使っていた大きい植木鉢に出会い、「自分たちも野菜を育ててみたい。」という子どもたちの思いから好きな夏野菜を育てることになった。横浜植木さんからは「子どもで嫌いな人が多いピーマンを自分で育てて食べてみてほしい。」と言われ、ピーマンも育てることになった。苗を植えてすぐ病気ではないか、成長が遅いのではないかと心配事が出てきた。その度に、地域の方や詳しい先生に聞くなどして、野菜の種類によって世話の仕方が違うことを知り、教わったことを心がけて毎日大切に育てた。収穫して美味しく料理をしてもらって食べた喜びから、冬野菜も挑戦したいとまたすぐにチャレンジが始まった。

○３年生　総合的な学習の時間

「パンの２わくわくけんきゅう王国」

「中がふわふわで外がカリカリのパンを作りたい！」という思いをもち、パン作りに夢中になっていた本学級の子ども達。学校が 50 周年記念の年ということもあり、次第に「永田台小の 50 周年記念パンを作って、お世話になっている地域の方や家族にプレゼントしたい！」という思いが芽生えた。自分達の想いが伝わるパンにするにはどうしたらよいか、地域のパン屋さんと協働しながら、作り方やデザイン、味についてプレゼンをし、何度も話合いを重ねていった。そして、「食べてもらう人が笑顔になってくれるパンにしたいな。」という相手意識の高まりから、見守り隊の方やキッズのスタッフ、そして高齢者の方が集まる団地のサロンの方へ実際にインタビューを行った。安心安全に、そして食べた人が笑顔になってくれるようなおいしいパンにするために、校内の先生だけではなく、地域のパン屋さんやお世話になっている地域の方等、見えない所でも子ども達を支えてくださる様々な方と繋がりながら、50 周年記念パンの実現に向けて活動した。

○５年生　総合的な学習の時間

「学校と地域に感動を届けよう！創立 50 周年記念バーチャル花火」

「50 周年をお祝いし、学校や地域のみなさんに感動を届ける花火を打ち上げたい」という願いの実現に向けて活動した。本物の花火を実際に体験する活動では、人々が思わず拍手をしたり固唾をのんで空を見上げたりする様子を目の当たりにし、花火の魅力への理解を深めた。地域の夏祭りで花火を打ち上げている山田さんのお話を伺い、飽きないように「起承転結」を意識した構成にすることや、変化や緩急をつけるとよいことを教えていただいた。花火づくりと上映の活動を繰り返していくことで、地域の人のために取り組むことの達成感や充実感を味わっていた。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

(1)　とことん追究する姿

身近な課題から自分達の成し遂げたい目的を設定することで、子ども達は切実感をもって活動をスタートしている。単元途中では充実した体験活動を行ったり、専門家と出会ったり、探究的に学びが連続していくようなストーリー展開を大切にしている。そうすることで時間を忘れて没入する姿、最後まで粘り強くとことん追究していく姿が見られた。

(2)　見通し、計画を立て、再構築する力

ゴールの姿や目的が明確になると、そこに向けて逆算的に計画を立てたり、必要な手段や学び方を考えたりする力がついた。また、実際の活動の振り返りを丁寧に重ねていくことで、「今、何のためにしているのか」目的に立ち返ったり、必要な目標を立てたりしながら、子ども達の力で実現への道を切り開き、ゴールに向けて歩んでいく力がついた。

(3) 多面的・総合的に考える力

目的意識と相手意識を明確にしていく中で、必要に応じてアンケート調査やインタビュー活動、専門家との連携を単元に位置付けている。そうすることで自分本位だった考えや視点を客観的に捉えることができたり、実社会の営みから本質的な価値に触れたりすることを通して、子ども達は多面的に物事を捉え、状況や文脈に応じて総合的に判断していく力が伸びている。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

(1) 学校教育目標をＥＳＤで育む資質能力の三つの柱で整理し、位置付けた

研究年度始めに、具体的な子どもの姿で育てたい力を共有した。そして、育てたい力は、ユネスコスクールの理念（平和、国際理解、環境、ＥＳＤ、ＳＤＧｓの推進）を教育実践していくこととも重なる部分は大いにあることが分かった。永田台小学校の学校教育目標からユネスコスクールとしての意義とつながりのあるところに色付けてみると、ほぼ網羅していることに気付く。このように、学校教育目標の実現を目指すことが、ＥＳＤを通して育成したい資質・能力と紐づいていることを共通理解し、スタートした。

４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

(1)　自己肯定感の高まり

横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査６年生の結果では、「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童の割合が４年間で 15 ポイントも増えた。必要感のある学びを職員が共同研究として進めていくことで、地域の役に立ちたい、こんな風になりたいと夢や願いをもって取り組んでいる。その結果、誰かに「ありがとう」と声をかけられたり、学級の中で役割を果たして達成感を感じたりすることを通して、自己肯定感の高まりと結びついているように考えた。これは生活・総合を柱にしたＥＳＤの実践を積み重ねてきた成果ともいえる。

横浜市立幸ケ谷小学校
学校教育目標**「自分 友だち 社会の幸せをつくる子ども」**
ＥＳＤを通して育成したい資質・能力
※ 各学級、学年の実態に応じて、本校の資質能力表をもとに策定（別紙参照）

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　□は連携・協働のパートナー

２年生の様子

４年生の様子

６年生の様子

２年生「生活科」
「ぐんぐんそだて！おいしいサツマイモ！」
　学校花壇で育てるサツマイモの育成を通して、子ども達は地域とのかかわりを深め、サツマイモそのものへの愛着を深めた。
　サツマイモの育成と食事にあたっては、地域の農園や学校調理員、また苗を譲り受けた外部講師などとの協力を頂き、特別授業も繰り返し行った。子ども達は育成の工夫を学ぶだけでなく、実際の調理のアイディアを出して実践したり、オリジナルの歌を作ったりと意欲的に活動を行い、学習は大きな展開をみせた。

４年生「総合的な学習の時間」
「海水槽大人気プロジェクト」
　本実践では、本校内に数年前からある海水槽に、自分達で取ったり釣ったりした生き物を海水槽に入れることで、色々な人が魚の面白さや生態に興味をもち、海水槽を大人気にするという目的のもと、学習を深めた。
　活動では、高島水際線公園や横浜港湾空港技術調査事務所にて、干潟体験や釣り活動を通して、横浜の海の豊かさや生き物の魅力を感じる姿が見られた。また、海水槽にたくさんの魚を入れたせいか、海水槽の魚が全滅してしまい、その失敗を２度と起こさないように、原因と対策を調べ、魚を入れる数や種類を話し合った。
　さらに、クラスで海水槽を作ったり、学校内の海水槽に入れる生き物をもらったりと、実践している。様々な大人の人達に海水槽の環境整備方法やどのくらいの生き物を入れたらよいかなどを教えてもらいながら学習を深めていくことができた。

６年生「総合的な学習の時間」
「幸ケ谷の歴史幻灯を映し出せ！～神奈川宿名物『亀の甲せんべい』をこのまちにもう一度～」
　本実践では、「SDGs11　住み続けられるまちづくり」をテーマに、神奈川宿跡が学区に拡がるまちの魅力の発信を目指した。まちの歴史を調べる中で、江戸時代からこのまちにあった名物「亀の甲せんべい」を最後につくっていたお店が 14 年前に閉店してしまったことに、子ども達は目を向けた。「地域が懐かしさを感じたり愛着が深まったりすることにつながるのでは」と、型を見つけ、レシピを調べ、名物復活に挑むことができた。
　区役所や神奈川宿盛り上げ隊とともに企画した「神奈川宿フェス」では、３００枚の亀の甲せんべいを販売した。子どもたちはアンケート結果から「地域の人の心の変容」を感じるとともに、まちへの愛着を深めることができた。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値
６年生の実践例を通して

　本校では、生活科・総合的な学習の時間を中心に地域や企業等に多くつながりをもって学習を展開している。
　６年生の総合的な学習の時間では、江戸時代からまちにあった「亀の甲せんべい」の復活というテーマに向けて区役所や地域の有志と連携を図り、実際の制作、販売に結びつけることができた。
　現在、存在しないまちの名物を復活させたことだけでなく、その学習過程において調べ学習を通して自分たちの住むまちの歴史を知り、人と出会うことで思考を深めることができた。また制作、販売の過程においても地域の方々と協働することで子どもたちの変容を生み出すことができた。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと
本校の重点研究について

　本校では、「自分 友だち 社会の幸せをつくる子ども」という学校教育目標を掲げており、ＥＳＤを柱に学校教育目標の達成に向けて力をつくしてきた。特に、総合的な学習の時間、生活科の実践においては、長年にわたって積み重ねてきた経緯があり、その成果は内外に高く評価されている。
　本年は、近年積み重ねてきた「リフレクション研究」を引き継ぎながら『効果的なリフレクションをベースにした問題解決的な学習の充実～誰ひとり取り残さない社会の創り手の育成を目指して～』というテーマで行っている。
　研究にあたっては、３つの ion(イオン)というものを視点として共有している。具体的には、Question(問いの質)、Communication（協働的な学び）、Reflection（振り返り）である。
　また、研究を進めるにあたり、毎年、幸ケ谷小学校で育てたい資質能力（系統表）を作成し、年度途中にワークショップ形式で見直す時間を設けており、職員からも効果的であるとの肯定的な意見が多く出ている。

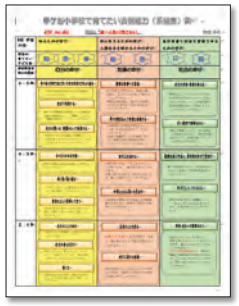


図１　本校の資質能力表

　３つの ion も資質能力表も、学校教育目標を達成するために、大切な視点であり、ＥＳＤを具現化したものであると考えている。

４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

　本校ではリフレクション実践に取り組み始めてから、協働的な研究会の在り方を模索してきた。また毎年、全職員が参加しての業務の見直しの研修会を設けることで、単なる業務改善でなく職員同士のつながりを意識した運営を重ねてきた。
　本年度は、業務改善の必要性を強く感じ、年度途中でも複数回、上記のような取り組みを行った。このように職員が自発的に改善を目指し、つながりをつくろうとしているのも、ＥＳＤを柱にホール・スクールアプローチで実践を重ねてきた歴史があるからだと考えている。ホール・スクールアプローチ実践は単に学校業務や活動をＥＳＤの視点で捉え直すだけでなく、職員同士のつながりや同僚性を高める価値があるのだと考えている。また、課題として行動変容まで至る児童とそうでない児童の差がある。こうした課題の解決に向けて、授業実践においても、子ども同士のつながりや協働性を高められるよう引き続き実践を重ねていきたい。

職員研修の様子

横浜市立市ケ尾中学校

学校教育目標「○自分で解決する力を大切にします。（知・公・開）

○心豊かに生きる力を大切します。　（徳・体）　」

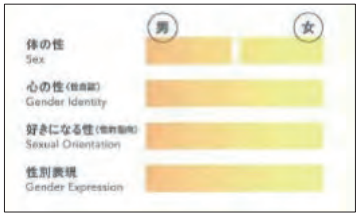
ＥＳＤを通して育成したい資質・能力　「他者や社会との関わりを大切にして協力する力」

「ものごとを多面的・総合的に考える力」「協働して課題解決するためのコミュニケーション力」

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　　は連携・協働のパートナー

東高校自作のワークショップの様子

生徒会本部主催のクイズ大会



「性の多様性」について人権感覚を磨く

職業講話当日プレゼンテーションの様子

【 生徒会本部役員「ユネスコスクール東高校と交流」 】

他校種と体験を分かち合い、自校における SDGs のフロンティアを開拓する目的として、生徒会本部役員と中央委員会有志生徒で東高校「サスティナブル研究部」と交流した。「サスティナブル研究部」による自作のすごろくやゲームを実際に体験することで、**楽しく活動しながらも社会課題に自然と意識することができた。**市ケ尾中の取組は、「環境」分野が主であるが、**貧困などの社会的・経済的分野にも視野を広げられることに気づくことができた。結果、今後の活動の幅を広げていこうとする生徒の意欲的な姿が見られた。**

【 全校集会「水について考えよう！クイズ大会」 】

生徒会本部では全校生徒に現代の水の課題や知識を知り、考えてもらいたいという思いの下、クイズ大会を企画した。**学年問わず、縦のつながりを大切にしたいと考え、どの学年でも取り組みやすいよう、２択クイズを考えた。「安全な水にアクセスできる国の数」にも注目してもらうお題も設定し、**東高校との交流で得た**「誰もが楽しんで取り組める活動」「環境分野以外も開拓すること」について、学校のリーダーとして具体的に行動することができた。**

【 全学年「道徳」「人権特設授業」 】

本校では、「道徳」での学びを活かし、様々な課題を「自分事」として捉えて、議論し行動できる人の育成を目指している。６月には、一つの物事も独自の価値判断で異なって捉えられることや日常の何気ない会話に偏見や差別意識が潜んでいることに気づかせるワークショップを行った。人権が自分たちの身近にあることを意識した上で 12 月、「あってもいいちがい」「あってはならないちがい」や性の多様性について全校で考え、**「なぜそう考えたのか」の理由について共有することで、各自が他者の視点を理解し、自己の価値観を見つめ直すことができた。**（２参照）

【 １・２学年「職業講話・課題解決学習」 】

「働く方々の生き方から多様な価値を学ぶ。課題解決学習から他者と社会とのかかわりを学び、将来に向けて自分が出来ることを考える」をねらいとして、NPO 法人アスリートのご協力の下、企業から事前学習として SDGs につながるビジネス課題を頂き、グループで解決策を考え、講話当日に企業講師にプレゼンをした。「お客様に必要な『 水 』を考えて提案しよう！」など**現実社会の課題解決を仮想体験することで、働くことが SDGs の達成につながることだけでなく、他者と協力して複雑な問いにチャレンジしていく楽しさ、異なる意見を受け入れて一つにしていく面白さにつながることを実感することができた。**（２参照）

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

(1) リーダーの変容

東高校との交流後に目を輝かせて、「こんな活動をうちでもやってみたい。」「自分たちの活動は自然環境に対するものが多いと気づくことができた。」という言葉があり、それが生徒主体の全校集会につながった。**高校生から興味をもって自分たちの活動に質問を受ける**ことで、自分たちの想いを今後にどうつなげていきたいか、考えを深めることができた。

(2) 「性」に対する人権感覚の変容

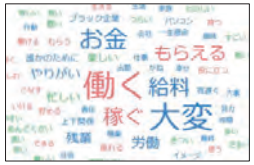
「性」をテーマとした 12 月の人権特設授業でお互いの違いを受け入れ認めあう意識や態度を育むためには、教職員一人ひとりが豊かな人権感覚を身に付けることが大切だと考えた。７月には特定非営利法人 SHIP を講師に迎え、職員研修を行った。そこで、「LGBTQ」というマイノリティーを区別する言葉ではなく、誰の状況にでも汎用できる「SOGI」＝**「性の多様性（グラデーション）」**（１の図参照）を学び、本校としては「SOGI」を生徒に認識してもらい、**「性」の当たり前を見直し「性の多様性」を自分事にすることを目標とした。**結果生徒の感想には、**「人は皆異なるものだから、変だなとは思うことはないようにしたい」「自分はそんなことはないと思わず、周りで性について悩んでいる人がいたら安心して自分を出せる世界にしていく必要があると思った」**などの記述が見られた。

(3) 将来働くことの価値観の変容

NPO 法人アスリードのコーディネートにより、各社から多様なビジネス課題を中学生のために提示して頂くことが可能となった。その結果、**「考えるのはとても大変だったが、班の人と考え、解決案が出たときや、褒められたとき達成感がありやってよかった」「普段生活して自分では気づけない新しい見方や価値観を学べました。いるだけじゃわからないこと、感じられないこと、取り組めないことにチャレンジできたのが楽しかった。」「SDGs だからやろうではなく、○○したいからやった。それが SDGs につながった。」**といった生徒の感想が印象的であった。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

本年度もプロジェクト型の生徒会活動を展開し、活動を先輩から後輩へと継承しながら、「持続可能な社会の創り手」としての資質・能力を育て、同時に教職員も全教育課程の中で ESD の価値を捉え直し、生徒の変容を見とり視覚化することを意識してきた。例年、前期と後期に委員会アンケートを実施し、７つの資質・能力の個人の成長点を視覚化し校内に掲示している。今年度は、職業講話実施前に、「働くことのイメージ」を生徒の現在地として職員に提示し、実施後にも同様の質問をすることでその変化に着目させるように工夫した。



職業講話実施前（上）と後（下）の生徒アンケート「働くことについてのあなたのイメージ」のテキストマイニング

４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

多様な人々と協働しながら様々な社会的変化に対応できる力が必要とされる社会では、他者との違いを認めることが大前提である。今回、道徳を含めた教育課程の中で、自分の考えに理由をもち、様々な価値基準をもって問題を捉え直すことを意識できることを目標としてきた。結果、そのような姿を見とることができた。本校の生徒は、卒業しても、個人の中に内在化した多様性の視点をもって、地域や社会に変容を促していくことができると考えている。

横浜市立東高等学校

学校教育目標

・自ら学び、熱心に学習する生徒を育成します（知）

・社会の一員として自ら役割を果たすとともに、国際社会の発展に貢献できる生徒を育成します（公・開）

ＥＳＤを通して育成したい資質・能力

「言葉の力」と「聞く力」を身につけ、論理的な思考力と高いコミュニケーション力

「主体的な学び」の成果をもとに、より高い進路目標の実現に向けて挑戦する力

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　　は連携・協働のパートナー

１年生「グローカルシチズンシップキャンプ」（ＧＣキャンプ）

「グローカル」とは「グローバル」と「ローカル」を合わせた言葉で、世界を見る目をもってまずは地域で活躍していく人材の育成を目標としたイベントである。１年生の６月下旬に設定し、これから本格化する課題探究学習の最初の一歩となるように内容も工夫している。

留学生を 40 人ほど招き、留学生１名に対し生徒７名ほどのグループを作り、英語でＳＤＧｓを題材としたワークショップを２日間行っていく。ＧＣキャンプの前後でアンケートや振り返りを実施することで、生徒の変容を可視化し、それを自分自身で自覚させるよう工夫している。

今年度のイベントは一般社団法人グローバル教育推進プロジェクトの協力で実施しており、留学生の募集や運営進行のファシリテーターをお願いしている。それにより、教員の負担軽減と新しい学びを得ることが可能となっている。教員向けの事前研修も充実しており、教員、生徒ともに学びの深まるイベントとなっている。

１年生「ＥＳＤ day」

10 月中旬、関東学院大学金沢八景キャンパスにおいて実施するイベントである。学長小山嚴也先生による基調講演のあと、同大学の先生方による分科会に参加する。大学での学び、それがＳＤＧｓに深くつながっていることを学ぶ。生徒は、実際に大学のキャンパスでオープンキャンパスでない普段の大学の姿を体験することができ、またすばらしい施設での実験等を体験することができる。今年度は、20 の分科会があり、「乃木坂 46 と日本の貧困～どうしたら貧困がなくなる？」「環境に優しいめっき技術を目指して～ファインバブルの活用」等幅広い内容であった。また、大学の先生方からは、このイベントを通して高校生からの刺激が新しいＳＤＧｓとの関わりの発見につながると評価をいただいている。

１・２年生「プレミアムプログラムⅡ」

12 月中旬、横浜市内のＳＤＧｓに関わる企業を招き（令和５年度は 30 社）、分科会を通して、企業の取組を学ぶイベントである。本校はユネスコスクールであり、ＳＤＧｓを軸に多くの企業とつながることができている強みを発揮したイベントである。企業からも、高校生と意見交換をしたり、ＳＤＧｓに取り組む他社と情報交換をしたりすることのできるイベントとして好評である。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

本校は 2018 年７月にユネスコスクール認証を獲得し、その前からＥＳＤ推進校として様々な取組を行ってきた。その際大切にしたことは、生徒に本物の体験をさせることである。それを本校では「知識のシャワー」とよび、多くの外部機関とつながっている。

(1)　大学

関東学院大学における「ＥＳＤ day」のほかにも「プレミアムプログラムⅠ」という高大連携のイベントも行っている。今年度は 20 の大学に参加していただいた。

(2)　近隣の商店街、ＮＰＯ、地域ケアプラザ

高校は、地元から通学している生徒ばかりではなく、なかなか近隣との交流が難しい面もあるが、東高校では、ボランティアという形でそれを実現している。

鶴見銀座商店街とは、毎月の商店街のイベントに生徒を運営スタッフとして参加させている。またサステイナブル研究部がフードドライブの活動を継続的に行っている。

ＮＰＯ法人つるみままっぷとは、ＥＳＤ委員会がつながっており、ウェルカムベビープロジェクトの取組のボランティアを行っている。

馬場地域ケアプラザとも多くのボランティアでつながっている。学んでご飯やスマホ講座のサポート等、今では東高生がいないとイベントが成り立たないと言っていただけている。

(3)　横浜市の多くの企業

12 月に実施するプレミアムプログラムⅡには、毎年 30 社前後の企業にご参加いただいている。企業側にとっても、このイベントをきっかけにつながりができたり、生徒用の分科会を他企業の方が受講したりと企業の新しい取組につながると好評である。

(4)　ＳＤＧｓに取り組む教育団体

今年のＧＣキャンプを実施してくださった一般社団法人グローバル教育推進プロジェクトとは、生徒だけでなく教員も多くの学びをいただいている。メディア総合研究所福田訓久氏には、生徒個々の探究活動を深めるワークショップを行っていただいている。福田氏には、１月のユネスコスクール講演会においても「学びの意義」というワークショップを１、２年生全員に実施していただく。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

ＥＳＤ推進校やユネスコスクールの認証を受けて６年がたち、問題点はかなり整理できている。その上で、特に今年度は、現在行っているイベントと日々の探究学習が効率よくつながり、互いに相乗効果が生まれるような仕組み作りに努力した。高校は今年の４月から全校生徒にクロームブックが配付されたので、それを使って調べ学習をしたり、プレゼンテーションをしたり、有効に活用することもできている。

また教員の負担軽減も考え、イベントの開催時期を移動させた。それにより、新しい効果が生まれ、教員の負担軽減だけでなく、イベントの価値も増やすことができた。来年度さらに良くしていけるよう継続的に検討していく。

４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

「東高校はユネスコスクールである」という価値

学校の中でいろいろなことを相談する際、「ユネスコスクールである」ということが軸となることが多い。それにより、現在の様々な取組が、矛盾なく、一つの筋を通したものとなっている。東高校は今年度創立 60 周年を迎えることができたが、今までの歴史に新しい価値を加え、さらに発展していきたいと考える。

生徒においても、ユネスコスクールにおける様々な取組や活動を目指して入学する生徒も増えてきた。また、進路においても、高校３年間の取組を軸に進路決定をする生徒や実際に総合型選抜入試において、自身の探究活動を用いる生徒も増えてきた。探究活動のレベルがさらに上がるよう努力していきたい。

横浜市立みなとみらい本町小学校

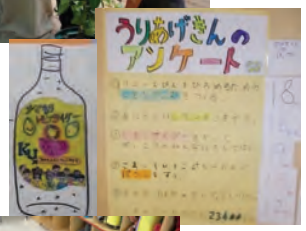
学校教育目標「「みな」と「みらい」を創る子」

ＥＳＤを通して育成したい資質・能力

「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」「問いを見い出して学び続ける」

「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　　は連携・協働のパートナー



６年生　「総合・国際交流」

「モンゴルの小学校と交流し、ＳＤＧｓを深めよう」

世界を笑顔にする歌を作りたいという思いをもち、５年生の頃よりＣＹＯ（シティーネット横浜）による協力のもと、モンゴルのウランバートル小学校と交流を進めてきた。２年目となる今年度は、互いの学校で行っている身近なＳＤＧｓ達成のための取組を情報交換したり、出来上がった歌を披露したりして感想をもらった。３回の交流を進めていく中で、日本の課題とモンゴルの課題は違うことに気付いたり、課題は違っても目的は同じであることに気付いたりすることができた。そんな中、もう一度自分たちの足元を見つめ直し、これから自分が意識していきたいことを互いに話し合うことができた。世界に目を向けることで、多面的に物事を捉えたり、多様性を感じたりすることができた。

学習室（特別支援教室）　「生活単元・総合」

「メガもりレモンサイダー」

もっと地域の人と関わりたいという思いをもって、よこはま観光資源開発のがんばレモンプロジェクトに参加し、１年半レモンの木を育ててきた。クラスで考えたオリジナルラベルのレモンサイダーを様々な場所で販売してきた。近隣のスーパーや大学、市庁舎での販売と発表を通して、相手意識を高め、互いに認め合いながら一つの目的に向かって活動を進めていくことができた。また、「リユース瓶とは何か、リユース瓶の良さ」について広め、リユース瓶回収の呼びかけもしてきた。呼びかけを聞き、クラスに空き瓶をもってきてくれた友達や保護者の方々がいた。子どもたちは、自分たちの想いが他の人の意識を少し変えることができたということに喜びを感じていた。

１年生　「生活科」

「ねんちょうさんとなかよし」

高島中央公園での出会いをきっかけにして、地域の保育園の年長児と交流を重ねた。初めての交流では、自己紹介や簡単な遊びをした。自己紹介では、名札作りを一緒に行い、知っている字を伝え合ったり、教え合ったりする姿が見られた。遊びでは、年長児と１年生が互いに楽しめるようにと、簡易なルールを工夫して考えることができた。

２回目以降の交流では、入学する前の年長児の「不安」を「安心」に変えるため、小学校のことを紹介する「なかよし作戦」を繰り返し行った。年長児との交流計画を考え、繰り返し活動することで、１年生の子ども達に、相手意識をもって人と接する力（多様性を認められる力）が少しずつ身に付いてきた。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

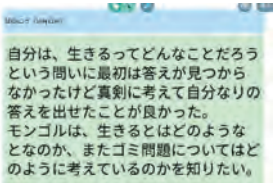
モンゴル交流

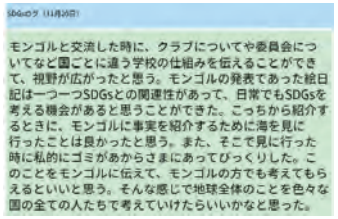
モンゴルとの交流を通して、大きな価値を引き出せたことは、実際に交流を行うことで、実際のモンゴルの様子や、モンゴルの子どもたちの考えが理解できたことである。交流前にインターネット等を活用してモンゴルのことについて事前に調べたが、調べるだけでは見えてこないものが多く見られた。日本では海のゴミ問題やマイクロプラスチック問題が深刻化しているが、モンゴルでは、森林におけるゴミの問題や家畜がそれを食べてしまう問題などを知った。それぞれ環境が全く違う中で、違う課題をもちつつも、目指すゴールは同じであることに気付くことができた。

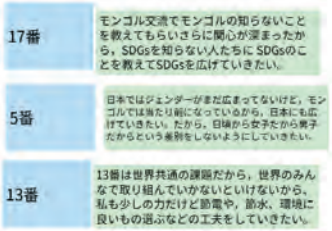
何度も交流を繰り返すことで、次に向けたフィードバックを行った。その中から子どもの発言や記述を捉え、そのよさを価値付けしていった。また、ＳＤＧｓログとして、一人ひとりが交流を重ねるたびに感じたことをログとして残し、自分の考え方がどのように変わっていったかも捉えられるようにした。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

ロイロノートを利用したＳＤＧｓログ







交流の難しさは、オンライン上になってしまい、なかなかつながる回数を増やせないことや、一緒にGOALを目指す協働学習にもっていくことが難しいことである。そんな中、シティネット横浜の協力のもと、２年間を通して５回の交流を行うことができ、子どもたちの学びにも深まりが見えた。価値を引き出すために有効なのは振り返りの行い方とそれに対する価値付けであると考える。価値付けも、教師や担任が行うだけでなく、校長や外部の方を巻き込んで行っていくことが有効である。さらに、様々な場で自分たちの活動を発表することで、活動のよさに気付き、自信をもって次の活動に取り組むことができると考える。今後は、グローバルな視点を持ちつつも、身近な生活でどのようなことができるか具体のアクションを考えていきたい。

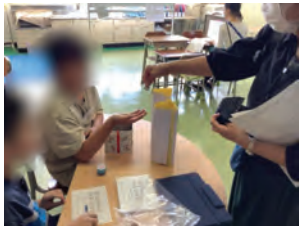
４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

ロジックモデルを活用したビジョンの共有とクラスロジックの活用

開校当初からＥＳＤを通して目指す子どもの姿を明確にしている。そのためにどのような活動を行うことができるかを教員全体で研究している。今年度はそのために学級でどのようなことができるかを考えてきた。１の資質能力の具体にもあるように低学年は園児、中学年（個別支援学級）でまち、高学年で世界と一つひとつ学年が進むにつれ、ＥＳＤの取組や考え方が変化してきている。持続可能な社会の担い手を育成するためにも学校としてのＥＳＤに対する視点、価値観を共通理解し、子どもの指導にあたることが大切であると考える。

横浜市立三保小学校
学校教育目標「進んで学び　高め合う子」
ＥＳＤを通して育成したい資質・能力　【ＥＳＤテーマ】�みらいをつくる　㋱んきのまなび
＜持続可能な社会づくりを担う力＞
○興味・関心を広げ、主体的に学び続ける力。（②未来）　○他者を思いやる心をもち、自他を大切にする態度。（Ｉ多様性の尊重）　○社会の一員として、自分の役割を進んで果たす態度。（⑦参加）

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　　は連携・協働のパートナー



５年生　「総合的な学習の時間」
「No more 食品ロス！！」
本実践では、身近な食品ロスの問題についての現状や要因を調べ、解決に向けた取り組みとしてフードバンクという活動があることを知った。また、実際に、フードバンクかながわの事務局長の方のお話を聞いたり、学校給食による食品ロスの量の多さを知ったりしたことから、給食プロジェクト、フードバンクプロジェクトの２つを立ち上げて取り組んだ。活動を通して、身近なことから自分たちができることを考えたり、自らの生活を振り返ったりする姿が見られた。

２年生　「生活科」
「竹とあそぼう」
毎年２年生では、地域にある「新治市民の森」の中にある竹を使った活動を、「新治市民の森愛護会」の協力のもと行っている。まず、遠足として「竹の切り出し体験」、後日「竹ぽっくり・竹でっぽう」に仕上げて遊んでいる。限りある資源を活用しようとしたり、愛護会の方や友達とかかわる中で、自分の思いを伝えたりする力の高まりを目指した。

個別支援学級　「総合的な学習の時間」
「もっと学校たんけん」
本実践では、昨年度のお店屋さん体験をした経験を生かして、小中交流日に他校の先生方にホットケーキをふるまい、その売上金を使って放課後のお楽しみ会を企画・運営した。見通しをもって自分の明確な役割に取り組んだことで、一人ひとりが自信をもち、次はこれをしたいという子どもたち自身の思いを多く引き出すことができた。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

(1)　５年生の実践では、プロの方のお話を聞いたことで、児童が食品ロスの問題についてより切実感をもって取り組み、全校にフードバンクについて発信する際にも方法や内容について話し合いながら吟味していた。これは、物事を批判的に考える姿と捉えられる。また、実際に校内テレビ放送で説明をした際には、「食品ロスを減らすためには、一人ひとりの行動が大切です。」と熱く訴える子どもたちの姿が見られた。連携・協働したことにより、児童がより自分事として捉えて行動できた。

(2)　２年生の実践では、実際に生えている竹林を見てから自分達の手で竹を切り分けることで、限りある資源であることを実感し、資源を有効活用していきたいという思いを育てることができた。また、活動の中での愛護会の方とのかかわりや、１年生に「竹ぽっくり・竹でっぽう」を紹介し、遊び方を伝えようとすることで、自分からコミュニケーションをとろうとする力の高まりが見られた。

(3)　個別支援学級の実践では、他校の先生方を店員としてもてなすという経験を通して、一人ひとりが自分の役割を全うし、結果喜んでもらえたという達成感を得た。その成功体験から、その後の話合い等の活動にも主体的に活動に取り組む姿が見られた。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

(1)　本校の重点研究について

本校は、地域の豊かな自然を活用しながら「持続可能な開発のための教育」（ＥＳＤ）を推進しカリキュラム開発と授業実践を進めてきた。持続可能な社会づくりを担う児童の育成を目指し、環境やキャリアなどの教育課題をクロスカリキュラムにより整理し、全教科等において授業実践を進めてきた。

今年度は、１・２年生は国語科、３年生以上は総合的な学習の時間で研究を進め、年間２本の研究授業実践を各学年で行っている。１・２年生で培った表現する力を土台として、総合的な学習を通して、進んでまちと関わりながら、目的を意識して様々な表現方法を活用する力（中学年）、様々な表現方法から目的や意図に応じて効果的な方法を選択して表現しようとする力（高学年）の向上を目指している。

(2)　ＥＳＤを通して育成を目指す「構成概念」と「能力・態度」の学年別重点化

昨年度に引き続き、ＥＳＤを通して育成を目指す「構成概念」と「能力・態度」を学年別に重点化を図り、１年間を通しての変容を探っている。

学年	構成概念	能力・態度
１年生	Ⅰ　多様性 多様性を尊重する態度	⑦(参加) 進んで参加する態度
２年生	Ⅲ　有限性 ものを大切にする態度	④(伝達) コミュニケーションを行う力
３年生	Ⅴ　連携性 互いに連携・協力する態度	⑤(協力) 他者と協力する態度 ③(関連) つながりを尊重する態度
４年生	Ⅱ　相互性 つながりやかかわりを大切にする態度	②(多面) 多面的、総合的に考える力
５年生	Ⅵ　責任性 責任と義務を自覚し、 自ら進んで行動する態度	①(批判) 批判的に考える力
６年生	Ⅳ　公平性 公正・公平に努める態度	②(未来) 未来像を予測して計画を立てる力

▲「構成概念」と「能力・態度」の学年別重点

４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

どの学年でも「まち」の人・もの・こととのかかわりを大切にし、繰り返し三保の自然やまちの人と関わることで、まちを知り、愛着をもつ児童が増えている。

校内には、各学年や委員会でのＥＳＤの取り組みを生かした掲示が多くあり、日々ＳＤＧｓを意識しながら自分たちの生活にいかそうとしている姿が見られる。

今後も、指導方法の一層の工夫や改善を図るとともに、「ＥＳＤの指導と評価」についてさらに研究を深めていきたい。

▲昨年度の６年生制作「三保小学校版ＳＤＧｓロッカー」

横浜市立羽沢小学校

学校教育目標**「笑顔いっぱい　すこやかいっぱい　大好きはざわの人とまち」**

ＥＳＤを通して育成したい資質・能力

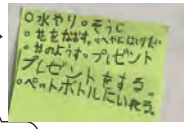
「自ら課題を見つけ主体的に最後まで取り組む力」「コミュニケーションを行う力」

「他者と協働する力」

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体　　は連携・協働のパートナー

【２年生の実践から】

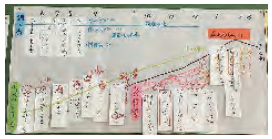
水やりが大変なんだって！



なかよし大作戦！喜んでもらいたいな。

「お礼だよ」ってお花をもらっちゃった！

【３年生の実践から】



羽沢のキャベツの甘味やシャキシャキ感、新鮮さを知ってもらいたいな。農家の方のすごさも広めたいな。

２年生　「生活科」

「もっともっとまちたんけん」

まちに住む人たちや、そこで働く人たちと繰り返し関わることで、児童のまちへの関心が高まった。普段の生活から、「まちの人とあいさつができたよ！」「地域のお祭りで〇〇さんに会ったよ！」と地域とのつながりを意識する児童が増えていった。また、地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、「相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」ということを目指した。

３年生　「総合的な学習の時間」

「広めるぞ！羽沢のじまん　おいしいキャベツ」

児童は「多くの人に羽沢のキャベツの味や農家の方の努力や工夫を広めたい」という思いをもち学習を進めた。繰り返し地域の農家・料理専門家・教員・保護者と関わり体験をすることで、主体性が高まった。児童は、自分たちの活動が地域活性化につながる価値のあることに気付き、「自信がついた」と実感した様子が振り返りに表れていた。また、自分たちがしたいことを叶えるだけでなく限られた時間や育てたキャベツの数を考えながら計画しようとする姿も見られた。

６年生　「総合的な学習の時間」

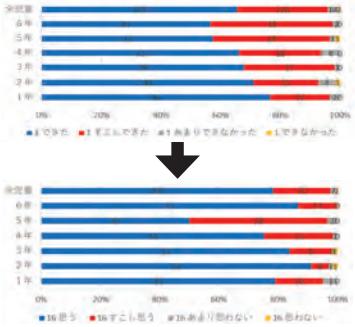
「大好きな羽沢のまちをＰＲしよう」

児童は、地域の方のまちの良さを伝えることで愛着をもってほしいという思いをもち、活動をしてきた。「はざわのまち」の捉えとして、それぞれが魅力だとしていたものが実は、『人』でつながっていることに気付くことができた。また、農業を営む方の話から今の自分だけでなく、将来仕事についた時も『人』のつながりが大切だと気付く児童もいた。人から話を聞くことや人と関わることの重要性を感じることができたのではないかと考える。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

(1) 粘り強く行動する子の育成

「むずかしい課題にもいろいろ試したり、工夫したりしてあきらめずに取り組もうとしましたか。」の項目で、夏休み明け（９月）と冬休み前（12 月）に実施したものを比較した。問いに対し、「できた」「すこしできた」と肯定的に捉えている割合はほとんどの学年で増加しており、高い数値を示している。



（「はざわの時間」学習アンケート　対象　全校児童）

(2) 自己肯定感を高め主体的に行動する子の育成

本校の児童はどの学年も肯定的な意見の割合が９割以上と非常に多い（アンケート項目「地域の方々と一緒に学習することは、自分たちの学習を高めたり、地域のために役立ったりすると思いますか。」）。大人に見守られていることを実感したり、プロから評価されたりすることが嬉しい気持ちや充実した学びにつながってきている。３年生の実践「広めるぞ！羽沢のじまんおいしいキャベツ」では、プロと関わることで自信をつけたり、次にやりたいことを自ら生み出したりする様子が見られた。以下の振り返りは、繰り返し関わってきた農家の方や神奈川区長に調理したものを試食してもらい感想をもとに次の活動に繋げようとした時のものである。

> 区長の日比野さんや内田さんが「風味がある」とか色々なおいしさのことを言っていて自信がつきました。　（Ｍ・Ｒさん）

> ぼくはキャベツがきらいだけどとてもおいしかったです。…羽沢地区のキャベツを使っているのがいいと内田さんが言っていました。…ぼくは羽沢の地産地消がすごいと思いました。…今度サラダを作るときにこの間よりキャベツの味ぐらい強くしてよりおいしくしたいです。…内田さんにもう一回アドバイスをしてもらいたいです。…校長先生や源保苑の森山さんと調理員の牧山さんに食べてもらいたいです。　（Ａ・Ｈさん）

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

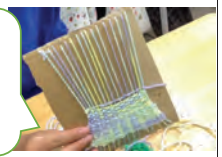
本校では、総合的な学習の時間を核とした「横浜の時間」の呼称を「はざわの時間」とし、重点研究として研究を行っている。児童は身近な人や事象に触れ、課題に対して自分の事として考えることで、切実感をもった本気の学びが生まれる。課題へ取り組む過程で意欲を持続し、あきらめずにやり遂げようとすることができると考えている。さらに、令和７年度から菅田中学校ブロックで新教科を始めるにあたり「自分の力でよりよい生き方を切り拓いていく子どもを育てる」ために、「非認知能力」に着目した。例えば「忍耐力」「思いやり」「自尊心」「知的好奇心」などは、テストでは図りにくく数値で示すことは難しいものの、自分と向き合い、他者と関わりながら前向きに生きていくことに強く影響するものであり、上記の子ども像を目指すために必要と考える。ＥＳＤの理念を生かした新教科を構想することで、双方を一体的に捉えて、より確かな資質・能力を育んでいくことを目指している。

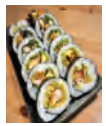
４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

職員全体で児童の教育活動を支援する意識ができた。担任だけでなく技術員や調理員、司書などが連携をして学校全体を見守っている。児童の様子や職場環境について共有する機会「にこにこはざわの会」を年に３回開催した。レクを取り入れて、職員のつながりも大事にした。

横浜市立恩田小学校
学校教育目標「自ら学び　ともに豊かな生活を創り出す子どもの育成」
ＥＳＤを通して育成したい資質・能力
【知識及び技能】Ⅰ多様性　Ⅱ相互性　Ⅴ連携性
【思考力、判断力、表現力等】①批判的に思考し、判断する力　③多面的・総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
【学びに向かう力、人間性等】⑤他者と協力する態度　⑥つながりを尊重する力

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体





６年生　「総合的な学習の時間」
「みんなの笑顔をクリエイト大作戦」

６年生では、クリエイト SD 桂台店と連携して、「恩田のまちに住む人が笑顔にしたい」という目標をもって活動に取り組んだ。クリエイト SD には子ども達が作ったオリジナルパネル、ポップ、ポスター、塗り絵を掲示した。恩田小とクリエイトがコラボした掲示物を見て、たくさんの人が喜んでくれた。

活動をしていく中で、自分たちが作ったものをプレゼントしてみんなを笑顔にしたいという想いが強くなった。そこでお風呂で使用できる「バスボム」と、アクリル毛糸から作成できる「アクリルたわし」を自分たちで作成した。初めのうちはバスボムの形が上手にできなかったり、アクリルたわしの糸がほつれてしまったりと苦労した。友達と協力して試行錯誤を繰り返し、よりよいものに改良することができるよう努めた。クリエイトに来たお客さんに、バスボムやアクリルたわしを渡したとき、たくさんの笑顔を見ることで、子ども達は大きな達成感を得た。使用してくれた人に Google フォームでアンケートを取り、良かった点や悪かった点を教えていただくことで更なる改善を見出すことができた。

５年生　「総合的な学習の時間」
「あいりん新メニュー開発プロジェクト」

５年生では、地域の飲食店（韓国料理バリューダイニングあいりん青葉台店）とコラボレーションをして活動することで、「地域に笑顔を増やそう、幸せを増やそう」という目標を立てて、単元を構想した。

材の決定に向けて、「地域と関わり、みんなが笑顔になれるようなもの」というテーマを設定した。材を決定する際には、児童から「今年は、飲食店とのコラボがしたい。」と全会一致で、飲食店との活動を進めていくことに決まった。

活動初期の頃から、児童は夢中になって取り組んでいた。韓国料理について調べたり、子どもから大人までに喜ばれるメニューを考えたりした。保護者の協力や友達同士で試作をしてみたり、店長さんからのアドバイスをいただいたりする中で、多くの人の支えのおかげで学びを深めることができた。「自分たちがやりたいことをやるだけでなく、相手に喜んでもらうことが大切なんだな。」「力を合わせて、関わるすべての人が幸せな気持ちになるような活動にしよう。」このように前向きに取り組んだことでメニュー作りもチラシ作りも販促活動でも児童の主体的に取り組む姿が見られた。

２　地域や企業、NPO などとの連携・協働により、引き出すことができた価値

（１）　今年度、学校の外部の企業や団体と連携して総合的な学習に取り組んだクラスは全クラスの８割で、いずれも他者と協働することで自己満足ではなく、相手意識をもった活動をすることができた。

（２）　外部の企業や団体との連携を通して、児童が主体的に活動できたこと、積極的に地域に目を向け活動したことはとても大きな収穫となった。

（３）　毎時間の振り返りや発言からも、児童にとって外部との連携は魅力的な活動となっていた。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

□ESD の構成概念と視点を取り入れた重点研究

本校では昨年度と同様に「生活科」「総合的な学習の時間」「算数科」を重点研究の教科とし、評価規準に ESD の構成概念と視点を取り入れて研究を進めている。生活科・横浜の時間では、問題解決学習中心となり、その学習活動の中で ESD の視点を取り入れやすく、その視点を明確なものとして研究を進めることができた。算数では思考・判断・表現の観点で ESD の視点を取り入れた。特に問題の練り上げの際に、①批判的に考える力や③多面的・総合的に考える力を見取る単元構想が多かった。しかし、ESD の視点を意識しすぎてしまい、算数科として児童に身に付けてほしい力をつけさせることが疎かになってしまうという懸念もあった。これを受けて、ESD の視点の受け止め方・解釈の仕方を教職員でしっかりと行う必要性があり、指導案検討や事後研究会の際には ESD の視点をどのように盛り込んでいけるかを話題に挙げていくように努めた。研究を進めていく中で、先に ESD の視点を意識して単元構成を考えるよりも、単元構成を考えた後に、ESD とつながる部分を見つけていくほうが自然な流れで取り組むことができた。

４　学校全体でＥＳＤを取り組むことによって引き出すことができた価値

□児童アンケートによる価値の見取り

本校が ESD の視点をもった学び作りを始めて、今年度で７年目に入る。また、昨年に引き続き今年度も、児童の委員会活動を SDGs17 の目標とつなげて展開してきた。

そういった活動を進めてきたことで児童の中でどのような変容があったのかを探るため、「SDGs17 の目標につながる活動についてのアンケート」を全校児童にロイロノートを活用して実施した。

1：SDGs17 の目標について知っていますか？
→ ３年生以上の児童の多くが理解しており、高学年ではほぼ全ての児童が理解していた。

2：SDGs を知って自分の気持ちや行動に変化はありましたか？
→ 電気をできるだけ使用しない、節水を意識する、食べ残しを減らす、ゴミの分別をする、もう一度使えるものを見直す、エコバッグを使用する等、前年度よりも多くの児童が、SDGs を達成するための行動を考えることができていた。

3：授業で、SDGs に関係する学習をしたことがありますか。→あります。
５年生で出前授業として、講師の方に来ていただいて、「未来カルテワークショップ」を開催した。

4：それはどんな授業でしたか。
ワークショップ形式で日本の将来についてみんなで考える学習だった。以下内容
・急激な人口減少、少子化
・異次元の高齢化の進展
・都市間競争の激化などグローバリゼーションの進展
・巨大災害の切迫、インフラの老朽化
・食、水、エネルギーの制約、地球環境問題
・ICT の劇的な進展など技術革新の進展
・ポストコロナの新しい生活様式

5：その学習でうれしかったことや楽しかったこと、できるようになったことは何ですか。
→ ○自分が住んでいる町にも SDGs 達成のために解決しなければならない社会課題があることを知れて嬉しかった。
○住んでいるこの町の未来にとても興味をもち、よりよくしていきたいと感じた。

横浜市立荏田西小学校

学校教育目標「心豊かにかかわり、互いに高め合いながら学び続ける子に育てます」

ＥＳＤを通して育成したい資質・能力

「知」課題解決能力　「徳」認める心の育成　「開」視野を広げ考えを深める

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体　　は連携・協働のパートナー

公園で土木事務所と愛護会の看板を見つけたよ。公園とどんなかかわりがあるのかな？

お菓子のゴミが多いよ。持ち帰らないといけないよね。小さい子が遊ぶときに、木の枝が落ちていると危ないね。

土木事務所の人たちが公園を作っていることを知らなかったよ。

折り紙の折り方には、色々な意味があるんだね。

贈る相手の喜ぶ姿を想像しながら折ることが大切なんだね。自分も嬉しい気持ちになったよ。

２年生　「生活科」

「こうえん大すき！こうえんたんけんたい！」

身近な公園の四季の変化を追うために公園探検を繰り返し行う中で、子どもたちは公園にある看板に目を向けた。「公園愛護会で花を育てています。大切に見守ってね！」という看板を見て「公園愛護会ってなんだろう？」「看板の周りには、パンジーやビオラなどの花がきれいに咲いているよ。」と興味を高めたため、愛護会の方と繋がりをもった。春には、花植えやゴミ拾いを一緒に行い、冬は、樹木プレートの作成と取り付けを行った。愛護会の方々との交流を通して、自分たちがいつも使っている公園が安全できれいに保たれているのは、愛護会の方々のおかげだと知ることができた。

また、土木事務所と書かれている看板も複数見つけた。他の公園にも看板があることに気付き、「土木事務所は何をしているところなのだろう？」「愛護会と関係があるのかな？」と疑問が浮かんだため、土木事務所の方にお願いして話を聞くことにした。自分たちが使っている公園の立ち上げに関わっていることを知り、徐々に公園が作られていく様子を写真で見たときは、大変驚いていた。公園完成後は、愛護会の方と一緒に公園の管理や整備をしていると教えてもらった。

愛護会と土木事務所との交流を通して、「公園を大切に使いたい」「きれいな公園を保ちたい」という公共心と、「自分たちが知ったことを学校のみんなに伝えたい」という次の活動に繋がる意欲が芽生えた。

３年生　「総合的な学習の時間」

「ナイスな折り紙で、サンキューをとどけよう！～ぼくたちでつくる安心のまち～」

休み時間に折り紙に夢中になる中で、「折り紙って、実はいろいろな所に飾られているよね。」「見ている人を楽しませたり、喜ばせたりする力があるんだね。」という子どもたちからの気付きがあった。クラス全体で話題を取り上げると、自分たちが得意な折り紙で、学校のみんなやまちの人々に日頃の感謝の気持ちを伝え、荏田西のまちを盛り上げたいという想いが出てきた。プロが紹介している折り紙の本や動画で研究していくうちに、実際に折り紙の先生に教えてもらいたいという思いが芽生えたため、地域の折り紙先生を学校に招いてお話を聞き、コツを伝授してもらうことにした。折り紙先生から学んだことを生かしながら、まずは身近な家族に折り紙とともに感謝を伝えた。「次は１年生にも伝えたい。折り紙で６年生の卒業をお祝いしたい。」という他学年との繋がりや、まち全体に広げていきたいという活動意欲が膨らんでいった。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

【６年生「総合」「もったいないをおいしいに！」の実践から】

本校は特に野菜の残食が多い、という実態を踏まえ、「野菜入りスイーツ」を校内に提供し、野菜嫌いを減らしたい、と探究活動を行った。商品開発の中で、スイーツに入れる野菜の塩梅という課題と出合い、はまふぅどコンシェルジュ中尾真紀子氏を招いた。「野菜の本当の魅力とは」「色々な種類や味の野菜がある。簡単に好き嫌いを決めないで欲しい」など新しい視点をいくつか頂いた。

その結果、野菜の魅力を知るために農家を訪問しよう、となり、土EN FARMに協力を得て、生産者の話を聴き、採れたて野菜の試食を行った。「野菜は思った以上に甘かったこと」「たくさんの工夫や苦労があって食卓に届いていること」に改めて気づき、「単に残食の量を減らすのではなく野菜に興味をもってくれる人が増えることに意味がある」という思いのもと、野菜の風味を取り入れたスイーツ開発に取り組んだ。

今後、中尾氏の協力を得てマルシェで販売してもらう。活動を通して、野菜嫌いだった児童も振り返りカードに食への感謝の気持ちを記載するようになり、小さな変容も見られた。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

(1) ESD を意識した重点研究

本年度から、重点研究を「生活科」「総合的な学習の時間」とした。生活科は学年ごとに進め、総合は学級ごとに単元を立ち上げた。本校では、身に付けたい力として、特に「④コミュニケーションを行う力」の育成を目指している。共に課題にぶつかり、話合いを重ねて解決策を模索する活動を増やすことで身につけさせたいと考えている。学級によっては、ぶつかったり、うまくいかなかったりすることもあったが、重点研究を通して、部会ごとに教員同士が話し合い、授業や児童の課題を共有したり解決したりできた。また、高学年では互いに連携協力して社会が構築されているという「連携性」に気付くよう単元を構成した。地域の企業や各分野の専門家など、人との繋がりを通して、自分の生活を大切に思えるよう学習を進めた。それにより児童同士のコミュニケーションも活発になり、自己肯定感を高めた児童もいたと考えられる。

(2) SDGs を意識化できる学校図書館

図書館に SDGs に関する図書を紹介する特設コーナーを設けた。図書委員会の活動として、委員自ら SDGs に関する本を探し、ポップやポスターを作成し掲示した。学校司書とも連携を図り、児童が SDGs を意識化できるように図書館の環境を整えている。

４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

本校は、クラスみんなで一つの活動を協力して進めることで、自分を認め、他者を認められる児童になってほしいと願い、重点研究を「生活科」「総合的な学習の時間」に決めた。今年度は１年目である。生活総合の時間では、児童が生き生きと輝く姿も見られ始めている。課題を見つけ、興味をもち、課題解決のために話し合ったり、調べたりするなどの活動は「生活科」や「総合的な学習の時間」の醍醐味といえるだろう。引き続き、ESD で身に付けたい力「④コミュニケーションを行う力」を発揮し、学校教育目標の「心豊かにかかわり、互いに高め合いながら学び続ける子」に育てていきたい。来年度は２年目となる。今年度の児童の姿や変容を見取り、持続可能な重点研究を進めていきたい。

横浜市立大門小学校

学校教育目標**「大門大好き　いい仲間　進んで学ぼう　元気な子」**

ＥＳＤを通して育成したい資質・能力

「地域の人と関わりながら、自ら課題解決をめざす力」

「世の中の難しい課題と真剣に向き合い、自分たちでできることを実行していく力」

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　　は連携・協働のパートナー

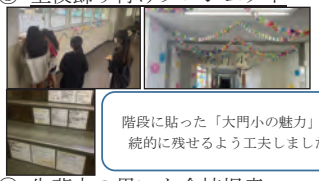
① 50 周年電子記念誌作成

大門の魅力／各クラスの生活科・総合の様子／未来の大門小の子どもたちへ一言などのページをつくりました！

② 50 周年式典

６年生が「つながり」を意識して式典を企画・運営しました！

③ 全校飾り付けプロジェクト



階段に貼った「大門小の魅力」は持続的に残せるよう工夫しました！

④ 先輩方の思いを全校児童へ

中学校へ行き、自分たちで「大門小の魅力」についてインタビューしました！

⑤ 50 周年記念品づくり

左の写真の上から順番に
１組→２組→３組

６年生は各クラスの総合の活動で専門家と関わりながら、「大門の魅力」をそれぞれ形にしました！

＜大門小学校創立 50 周年記念
SMILE　大門小　未来にはばたけプロジェクト
未来へつなげる大門小のよさ～学校と地域のつながり～＞

「ＳＤＧｓの視点と周年行事を合わせた取り組み」

今年度、大門小学校は 50 周年を迎えた。同時に、今の６年生が１年生の時からＥＳＤ推進校として取り組んできた。６年生は、毎年ＳＤＧｓの視点を意識して生活科や総合的な学習の時間の学習に取り組んだことで、持続することの大切さに気付けた。それと同時に、地域の人とつながることで、地域の人の優しさや思いに気付けたり、専門家とつながることで、世の中の難しい課題と真剣に向き合い、自分たちでできることを実行していったりする力が特に高まった。そんな６年生が以下の「50 周年記念プロジェクト」を企画運営し、50 周年行事を大いに盛り上げた。この活動は、ＳＤＧｓの視点を意識し、生活科・総合的な学習の時間を中心に取り組んだ。

６年生　「50 周年記念プロジェクト」

① 50 周年電子記念誌作成
→地域の良さや大門の魅力を取材しながら電子記念誌に児童手作りでまとめた。

② 50 周年式典
→今までお世話になった方や地域の方を招待し、大門の魅力を映像で紹介したり、お祝いを言葉で表現したりしながら、全校で50周年をお祝いした。

③ 全校飾り付けプロジェクト
→６年生が 50 周年を祝うために校内を装飾した。「持続的な装飾」を意識しながら、全校に協力をお願いした

④ 先輩方の思いを全校児童へ
→６年生が大門小の卒業生にインタビューに行き、情報を収集し、整理して映像としてまとめて全校児童に伝えた。

⑤ 50 周年記念品づくり
→６年生が総合的な学習の時間で、専門家と関わりながら、50 周年として大門小に残せる記念品を作った。
１組：50 周年記念ソングづくり（音楽家）
２組：大門の畑で取れた野菜を活かした、新メニュー開発（レストランのシェフ）
３組：50 周年記念Ｔシャツづくり
（株式会社グラニフ）

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

(1) 本気の学び

本気の学びを引き出すために、今年度、６年生は３クラスとも「総合的な学習の時間」の活動の中で専門家との関わりを大事にしてきた。音楽家の方の歌詞にかける思い。レストランのシェフの素材を大切にする思い。デザインＴシャツクリエイターの「デザインを通して人と人をつなげたい」という思い。どの活動も、専門家の思いが子どもの本気の学びにつながったと考えられる。

６年３組のＴシャツづくりの実践を例に考えてみる。「大門の魅力を手に取って残したい！」という思いから、「地域と大門小の魅力が伝わるオリジナルデザインＴシャツ」づくりに励むことになった。大門の魅力を集めたり、集めた情報を整理分析したりする中で、専門家の方のアドバイスの必要性に気付いた。本単元で連携した専門家「株式会社グラニフ」は、グラフィックを通して新しい絆やコミュニケーションを創り出し、より良いカルチャーや習慣を創り暮らしを彩っていくのに、力を入れている企業である。繰り返しデザインを製作していく中で、プロの方から次のような言葉をいただいた。

「小学生が考えたデザインとしては素晴らしい。でも、ここからはプロの目線でアドバイスするね。デザインを通して、一番伝えたいことが分りにくいなぁ」

すると、次のような振り返りが生まれた。

<児童①>

今回のお話で、完成までの一通りの流れを聞いて、完成までの見通しが立ってきました。例を聞いて、自分も早くやりたいなとワクワクします。

グラニフさんが「何を伝えたいか」と言っていたのが大事だなと感じました。私は、大門小が建て壊し?になってしまうから、黄色い校舎を目立たせたいなと感じました。他にも、50周年のめでたい感じを表したいなと思いました。

<児童②>

グラニフさんの話を聞いて自分たちもまだまだ未熟だと痛感した

児童①に関しては「ワクワク」という言葉から次の活動の意欲の高まりが感じられる。これは専門家の言葉から自分たちの活動をメタ認知すると同時に、プロに近づきたいという思いに変容していることがわかる。

児童②に関しては、キャリアの視点の厳しさを学んでいることがわかる。このように、専門家と関わることで「本気の学び」が生まれて、よりよい活動につながった。

また、様々な方へインタビューを繰り返す中で、大門小に携わってくれた方々や地域の方が多様な価値観をもっていることにも気付けた。地域の方と関わることで、自分たちのまちや、大門小をずっと大切にしていることを実感することができた。さらに、何をもっとも重要な魅力としてデザインに表していけるかを考えることを通して、複数の情報から目的にあったものを選ぶ思考力も高まった。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

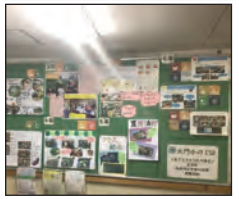
(1) 校内研修と校内掲示

年度当初に教職員間で生活科、総合的な学習の時間の年間見通し確認するともに、これまでのＥＳＤ推進校としての取組の共通理解を図った。

校内ＥＳＤ担当者を中心に、総合的な学習の時間と生活科の基本的な考え方について、全体研修を行った。また、大門小のこれまでのＥＳＤ推進校としての取組を振り返り、学校全体で本年度の見通しを確認した。

また、校内に以下のような掲示を行い、過去の実践なども紹介しながら、ＥＳＤの価値を引き出した。

過去の生活科や総合的な学習の時間の取組の紹介
推進校として活動が始まった６年前の取組から掲示



４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

(1) 周年行事とＥＳＤ

今回、50 周年行事をＥＳＤと結び付けて取り組んだことで、全校児童が地域の人や、大門小の卒業生、先生などの協力があって「今の大門小学校」があることに気づき、この先も「自慢のできる魅力あふれる大門小学校を持続したい」という思いに変わった。

また、学校と地域のつながりを視点に置きながら、学習経過を大門フェスティバルで発表する大切さに気付けた。50 周年をみんなで祝うことで、学校に対する愛着を育むことができた。

さらに、６年生は、地域の人や、大門小の卒業生、先生、全校児童などに取材をしたり、それを全校児童に伝えたり、全校で 50 周年を祝う取組を考えたりする活動を通して、目的に応じた表現力や情報の整理分析能力を高めることができた。

このようなことから、SDGs11 の視点「住み続けられるまちづくり」の意識が特に高まったと考えられる。今後も、大門小の特色である「ＥＳＤ」の意識を高めていきたい。

横浜市立中和田中学校

学校教育目標「自ら学び、自他を大切にして、社会に貢献する生徒を育てます」

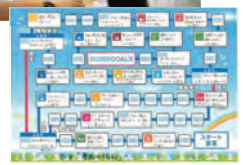
「自ら学び」（知）

「自他を大切にして」（徳）（体）

「社会に貢献する」（公）（開）

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　　は連携・協働のパートナー

けが予防のためのストレッチを行う様子



SDGs すごろくを行う様子とすごろくシート

←過去に仲間がつくった SDGs 川柳を見ている様子

ロイロを活用して自分の考えをまとめる様子→

歩道のゴミ拾い活動を行うボランティア部

２学年　「総合的な学習の時間」
「横浜マリノスによる食育教室」

プロスポーツに関わるコーチの実演や食育の話に触れることで、健康と食事の関わりを理解し、自らの健康に対する意識を高めた。また、スポーツ時の栄養や水分補給の仕方、補食の取り方、試験時の食事の摂り方など、将来に向かっての食習慣づくりや食生活の改善につなげることができた。また、コーチとともに、けが予防のためのストレッチ体操を行った。

２学年　「特別活動」
「SDGs すごろくの実践」

NAGANO SDGs PROJECT の WEB サイトに掲載される SDGs すごろくゲームを行った。「身近な SDGs」をテーマとして、17 の目標ごとに出来事を書き込みながらすごろくゲームを制作した。自分たちで作る、楽しめるオリジナルの SDGs すごろくゲームとなった。「苦手な食べ物があったが給食を残さず食べた。２マス進む」や「エコバッグを家に忘れてきてしまった。１マス戻る」など、自分たちが普段行っている活動が、SDGs に繋がっていることに気付き、地球規模の課題解決に向けて自分たちができることを考えたり関心を高めたりするきっかけとなった。

３学年　「社会科（公民）」
「SDGs を通して現代社会の課題を解決するために国民として何ができるのかを考える」

日本が SDGs の 17 の目標をどの程度達成できているかを考え、ニュースや文書をもとに現代社会の課題を考察し、2050 年の日本が課題解決に向けてどのような取り組みをしていくべきなのかを考えた。これらについて、自分の考えをロイロノートにまとめ、クラスの仲間と共有したり、発表したりした。

全学年　「ボランティア部」
「道路清掃と募金活動」

泉土木事務所と連携し、ハマロードボランティアとして、学校から最寄りの駅（立場駅）や近隣の和泉第２公園までの歩道のゴミ拾いを行った。また、泉区社会福祉協議会と連携し、12 月に泉区内にあるボランティア団体への助成金を集める募金活動を行った。いこいの家の運営費や宮の前テラスでの子ども食堂の補助費など様々な団体に利用されている。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

(1)　３年間に１度、ユニクロが主催する『届けよう、服のチカラプロジェクト』に参加している。ユニクロ社員から出張授業を受けたのち、子どもたちが主体となって、校内や地域で着なくなった子ども服を回収する。回収した服は、難民などの服を必要とする人々に届けられる。このような世界規模の活動には、校内で取り組むことは難しいため、企業との連携が不可欠だと感じた。誰もが知っている衣料品の企業であるため、生徒の関心も高く、近隣の小学校とも協力したため、1000 着以上回収することができた。中心となって活動した生徒会本部役員の様子を見ると、企業や近隣小学校との連携という点、また多くの服が集まったという点から、社会への貢献度を大きく感じている印象であった。

(2)　横浜マリノスによる食育講座では、プロのスポーツに関わるコーチによる講演であったため、生徒の関心も高く、普段の生活と照らし合わせ、自分事として捉えながら参加することができた。実際に体を動かしてストレッチを行うことで、体を健康に保つための知識がついたり、スポーツをやっている生徒は、今後の自分の姿勢に生かしていきたいという意欲につながったりしていた。滅多にない機会ではあるが、どの分野においても「プロ」に教わる機会というのは、生徒の興味関心をひきつけるものであると感じた。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

(1)　SDGs への貢献意識を高めるための活動

これまでの活動を振り返ると、ESD 推進校として、エコバッグづくりや服のチカラプロジェクト、チョーク再生などさまざまな活動に挑戦してきた。これらの活動は、生徒の関心度も高く、高い成果が得られた。一方で、「SDGs への貢献＝何か特別なことをする」というイメージも学校全体に広がった。

そこで、「普段、当たり前にしていることが、SDGs につながっている」ということに気付けるような取組を試みた。内容としては、SDGs すごろくを通して、『身近な SDGs』をテーマに、各目標に合った出来事を考える活動をした。ゲーム形式にすることで、前向きに取り組ませることができ、他の班がつくったシートでも遊ぶことで、さまざまな考え方に触れることもできた。目的でもあった「多くの生徒に SDGs を身近に感じさせる」という点でも効果を感じられた。

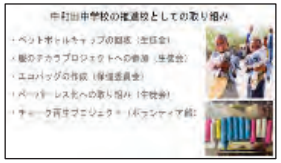
４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

(1)　「ペーパーレス」

令和４年度に学校全体の重点取組としてペーパーレスを進めたことをきっかけに、保護者向けのアンケートで二次元コードを活用したり、生徒会活動でも評議会や選挙公報をクロームブックで共有したりする活動が、今年度も継続できた。教職員、生徒ともに資料のデジタル化が進められている。

(2)　教職員メンターチームでの ESD 理解

これまでの中和田中学校の取組や今後の展望について共有することで、異動してきた教職員とも足並みが揃い、学校全体で ESD 推進を図ることができた。



横浜市立西本郷中学校

学校教育目標

「自ら挨拶・自ら判断・自ら行動、人とのつながりを大切にする思いやりある西本中生」

ＥＳＤを通して育成したい資質・能力

「コミュニケーション力」「つながる力」「行動する力」「情報活用力」

１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　　は連携・協働のパートナー

１年　学校図書館を利用した情報収集

１年生「総合的な学習の時間」
「地域学習（防災）」

横浜市の防災について各班で家庭、地域、都市型災害など与えられた課題から問いをたて、テーマを決めて調べ学習を行った。学校図書館や新聞資料、インターネット資料を活用して情報収集し、その成果をまとめた。その後、地域防災拠点運営委員長を務める方から講演していただき、栄区の防災や地域防災拠点についての内容、中学生に取り組んでほしいことを聞き、自分にできることを探究した。

２年　１年生のフロアーで聞き取り調査

２年　（右）銀行の融資を前にメンバーで相談

（下）実際の融資相談会

２年生「総合的な学習の時間」
「会社経営体験プログラム」

沖縄のアンテナショップを栄区に作ろうというテーマに沿って、魅力を伝えるグッズを作製・販売する活動を通して、自分づくり（キャリア）教育を行った。

起業家講演会から、課題を解決する起業についての意識を高め、社長・宣伝・仕入れ・製造・販売・会計などの役割を体験した。顧客を１年生に想定し、休み時間に各班が１年生のフロアーで聞き取り調査を主体的に実施したことは、自分の得意・不得意を改めて見つめなおす機会となった。

また、銀行員の方と連携して融資相談会の授業を実施した。生徒は、融資をお願いするために自分たちの考えや商品の良さを銀行員の方に理解してもらえるようにプレゼンを行った。普段の学校生活では体験できない活動を通して、コミュニケーション能力を高める機会となった。

３年　（左下）ポスターセッション発表会

（右下）成果物のポスター

３年生「総合的な学習の時間」
「修学旅行 SDGs 体験コース」の事後学習

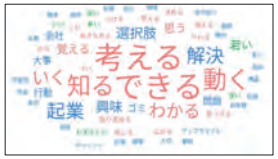
沖縄の修学旅行ではSDGsの４つのゴールを意識した体験コースを設定した。ゴール 11 では、沖縄の歴史保存について、ゴール 14 ではプラスチック問題、ゴール 15 ではサトウキビ栽培、ゴール 17 では共同売店の経営について、グループごとにそれぞれの問いを立て、「持続可能な沖縄」のために個人で、地域で、国でどのようなことができるかを探究した。現地では、博物館、環境研究情報センター、農業生産法人などでレクチャーを受けたり、インタビューを実施したり、横浜に戻ってからは、内容をポスターにまとめたりした。さらにポスターセッションで保護者にも参加してもらい相互に発表を行った。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

(1) 振り返りから生徒の変容をみとる

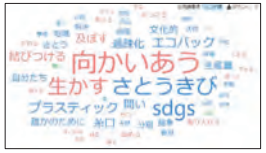
＜起業家講演会の振り返り＞

「自分たちの身の回りにもできることがあるかもしれないと考えるようになった」「ゴミに価値をつけるアップサイクルはとてもいい考え」「誰のどんな問題をどのように解決するか、深く考えたい」など、考えて行動することの大切さを認識したことが読み取れる。



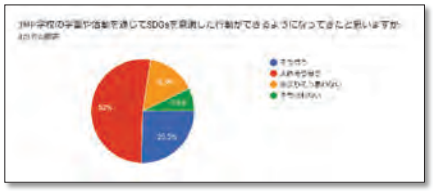
＜修学旅行の振り返り＞

「課題に向かいあって、どのようにして解決するかを主体的に考えることができた」「問いを立てて解決のための糸口をみつけ、その結果発見したことから再び新たな問いを立てる、という思考の循環を身につけた。」など、成長を実感する振り返りが見られた。



(2) 学校評価アンケート

昨年度の「SDGs の取り組みができているか」という質問を、「SDGs を意識した行動ができているか」に変更し、より意識して行動するかを問うようにした結果、８割近くが「そう思う」「大体そう思う」の回答となった。



３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

(1) ＥＳＤ推進委員会発足

本年度、校務分掌として正式に「ＥＳＤ推進委員会」が発足した。今までは「ＥＳＤ担当」が単独で存在するだけだったが、特別委員会としての位置づけで、体育祭や文化祭と同等の組織となった。メンバーは 10 名で、教科・領域等の学習内容を SDGs17 の目標で価値づけ、「持続可能な担い手」育成を意識した学校運営、授業、地域との連携を図った。

また、生徒会活動等も、身近な課題や社会課題の解決に向けた活動につながるよう検討していく組織を目指している。

組織化したことで、定期的に会議が設定され、情報を共有する時間も確保可能になった。この報告書の作成にあたっても、会議の時間に PC を持ち寄って共同編集した。今年度の活動を振り返ることができると同時に、業務の効率化も図れた。

４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

(1) 生徒会活動

生徒会本部をはじめ、各委員会の目標を決めるときに、SDGs の 17 の目標を決定したことで、自分たちの活動が SDGs のどの目標と結びついているかを確認した。保健安全委員会では、食品ロスの話題を取り上げ、少しでも SDGs を意識できるよう、全校で取り組んだ。年度末には、自分たちの取組に対する振り返りアンケートを予定している。アンケートの結果をＥＳＤ推進委員会で検討し、次年度の計画に生かしたい。

(2) 各教科・領域等

各教科・領域の中でも SDGs の意識付けを行い、生徒が SDGs を知るきっかけをつくり、主体的に行動できるための環境づくりを行った。今後はこれらの取組を視覚化する工夫をし、持続可能な実践にすることが求められる。

横浜市立西柴中学校

学校教育目標　「共に学び、たくましく、豊かな心」をもった生徒を育てます。

（知・開）　（体）　（徳・公）

ＥＳＤを通して育成したい資質・能力

「生徒一人ひとりが自他を尊重し、心豊かに向上心を持って学ぶことができる学校」

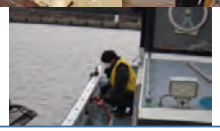
１　ＥＳＤを通して育成したい資質・能力の具体（例）　　は連携・協働のパートナー

▽全校　◎総合的な学習の時間

「ＪＯＣＡ国際理解教育地球市民講話」

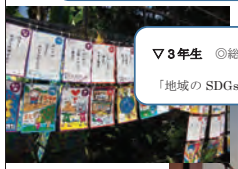
▽１年生　◎総合的な学習の時間

「ボッチャ体験」「パーソル　キャリア教育講話」



▽２年生　◎総合的な学習の時間

「道志村の課題解決学習」「福祉学習」「キャリア学習」



▽３年生　◎総合的な学習の時間

「地域の SDGs 取組み調べ・体験学習」

▽全校　◎総合的な学習の時間

「ＪＯＣＡ国際理解教育　地球市民講話」

海外で働いた経験がある人の話を聞くことにより、視野を広げ、勤労観・職業観を形成することにつなげた。国際社会への興味関心をもたせ、様々な生き方を学ぶことができた。

▽１年生　◎総合的な学習の時間

「ボッチャ体験」「(株) パーソルキャリア教育講話」

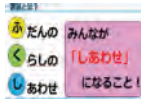
「ボッチャ体験」を通じ、健常者も障がいのある人も、同じ社会で一緒に生きていくために自分に何ができるかを考えることができた。「キャリア教育講話」により、企業の SDGs を含めた様々な取り組みについて学び、自分たちの学校や地域での生活の中で「今、できること」を考えることができた。

▽２年生　◎総合的な学習の時間

「道志村の課題解決学習」

「福祉学習（金沢区社会福祉協議会　他）」

「キャリア学習（職場体験　受け入れ先）」



自然教室で行った「道志村」の現状を「名産品」「地場野菜」「林業」のテーマで探求し、地域の力になれる中学生を目指した。併せて、国語科で説明文「100 年後の水を守る」を扱い、水資源の現状や大切さを知った。「福祉学習」では各種体験学習や、様々な人と自主的・意欲的に関わる機会を通して的確な支援の方法や自分にできることを考え、実行できる心を育てた。「キャリア学習」では自分を見つめ、現在の関心や将来の生き方について考えを深め、社会で必要とされる力について考えた。

▽３年生　◎総合的な学習の時間

「地域の SDGs の取組調べ・体験学習」

（YOKOHAMA リビングラボ、金沢シーサイド FM、アサバアートスクエア、カナかる、アマンダリーナ）

３年間のまとめとして、地域での活動を通して新たな発見や気づきをまとめ、多角的な考え方を知り、SDGs の取組の未来の担い手になれる中学生になることを目指した。より身近な SDGs を実感するために、地元である「金沢区」で実践されている取組を体験した。

２　地域や企業、ＮＰＯなどとの連携・協働により引き出すことができた価値

総合的な学習の時間の中で地域での活動を通して人とのつながりから「よさ」を再発見し、校内や地域に発信する取組を行っている。

２年生は、福祉学習で「金沢区社会福祉協議会」にお世話になった。多面的・多角的に考えることで、福祉の大切さや幅の広さを知ることをねらいとした。車いす利用者の講話や体験といった「からだの不自由な人のための福祉」だけではなく、「私たちが関わる福祉」を知るために区社協や地域ケアプラザ、区役所福祉課のほか、地域で活動する「親子の広場」「スペース谷津坂」「谷津坂文庫」「にししば土曜塾」「中部でつながるふれあいマルシェ」の各代表にご協力いただき、地域調べやインタビューを実施した。学習のまとめ発表の際には地域の方や講師の方々をお招きし、学習から考えた地域のよさを発信した。今回の学習活動をきっかけに、ボランティアに参加をするなど、地域とのつながりを深めた生徒も多かった。

３年生は昨年に引き続き地域の探究学習を行った。YOKOHAMA リビングラボの河原様にコーディネートしていただき、「横浜」にある企業の SDGs の取組を調べ、内容をパネル化して文化祭で展示発表した。また「地域（金沢区）」で実践されている SDGs の取組（ラジオ収録、アート作品作り、ご当地かるた体験、農作業）を体験した。体験をもとに「中学生の自分たちにできる SDGs」を検討し、まとめとして文化祭でステージ発表を行った。発表方法は、オリジナルラジオの放送や劇、アート作品作りなど多岐にわたり、創意工夫がなされていた。

３　ＥＳＤの価値を引き出すために試行錯誤したこと

(1) 教育活動を SDGs と関連付ける

昨年までは取組の中心は「総合的な学習の時間」がほとんどであったが、今年度は校外学習（遠足や自然教室）などのスローガンや事前・事後学習との関連づけや、国語科（説明文読解）や英語科（SEPRO　GLOBAL）の学習にも取り入れ、教科等の横断的な学びになった。また、地域で取り組む学習との関連も図ることで、学びの場が広がり様々な相乗効果を生み出している。以上のことは、生徒の「日々の生活が SDGs と関連している」という気づきにつながったと考えられる。今後は教科等の学習活動だけではなく、生徒会本部役員や専門委員会での取組の導入も検討したい。

(2) 長期的学習として定着させるための工夫

年間職員反省の中で「長期的な学習や大きな目標達成になるからこそ、教職員全体で計画を共有し、展開すべき」という意見があった。本校の ESD の取組の中心である「総合的な学習の時間」のカリキュラムを軸に、今ある教育活動の骨組みを再確認しつつ、教職員内でも SDGs や ESD の価値を捉えなおし、啓発や推進を行いたい。そのために、今後は職員研修や講師の招聘などを検討する。生徒の資質・能力や意識の向上のために、まずは教職員の働き方改革の視点ややりがい、校務分掌も含めた学校教育全体、学校運営組織を再度見直していきたい。

４　学校全体（ホールスクール）でＥＳＤに取り組むことによって引き出すことができた価値

中期学校経営方針における重点化

本校では中期学校経営方針において、ESD の推進は重点取組分野のひとつである。地域社会で行われる各種取組に興味関心をもち、積極的な関わりをもつことができるよう、自らが地域における担い手になるという意識を育み、自助・共助・公助の必要性を学ぶ機会をつくるための活動ができた。引き続き、持続可能な社会の担い手の育成につなげていきたい。